

自然の力

一二三朋子

我が住まひ、京都市内の西、桂川に面す。朝夕の犬の散歩の折々、木々の緑、季節ごとの草花、鳥の囀りに心癒さるるなり。

進化の過程において、人間は九分九厘の時間を自然の中にて過ごしぬる故に、そもそも我々が生理機構、自然に適應してありとの由。森や草原は果實及び動物類などの食糧を得る可能性を意味し、鳥の樂し氣なる囀りは安全なる状態を意味す。森の中をゆるりと散策すれば、都會を歩く時に比して、ストレスホルモン、血圧、心拍數と、全て大幅に下がるとのことなり。森林療法、森林浴などの心身の健康に與ふる有効性も明らかとなりつつあり。ちなみに、樹木なき團地の竊盜及び暴力關聯の犯罪件數、綠豊かなる團地のおよそ二倍に昇るとの調査結果も報告せらる。豊かなる自然なむ、個人にも社會にも良き影響を與ふること、豈驚かざるべけむや。

繩文時代、一萬五千年もの長きにわたり、戰爭なき平和の時代を築きけるは、自然との共生によるならむ。狩獵採集漁撈生活なれど、五〇〇種類以上もの食糧を得、旬の味覺を樂しみきといふ。豊かなる自然の恵みに感謝しつつ、嚴しき天災によりて自然への畏敬の念培ひ、穩やかかつ忍耐強き精神を養ひたりけむ。八百萬の神を信仰し、太陽に手を合はせ柏手を打つ日本人の姿ぞ、小泉八雲の日本好きの一因なりける。

日本人の自然への親しみ及び關心なむ、さまざまなる側面に見らるる。先づ、日本人の苗字に使はるる漢字の多くは「山」や「田」「木」など自然に由來せるものなり。「伊藤」「加藤」などの「藤」は古代の名門貴族「藤原」氏に由來せる。「藤原」氏の祖なる中臣鎌足、大化の改新等の功績を稱へ給ひし天智天皇より、鎌足の出生地なる大和国高市郡藤原に因みて「藤原」姓を授けられしものなり。藤原なむ「藤の生ひたる原」の意味にて、元を辿れば自然に由來することかくの如し。

次に、短歌及び俳句にも自然を詠みしもの極めて多し。例へば、次なる歌と句、雄大なる自然をただ大らかに素直に詠ふのみにて、人間の存在感 無きに等し。

東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ 柿本人麻呂

菜の花や月は東に日は西に 與謝蕪村

さらに、自然を繪畫の主題とせるものも多し。ジャポニスムを起せし浮世繪の 西洋美術に與へし影響數多あれど、繪の主題もその一つならむ。それまでの西洋繪畫の主題は、宗教畫、肖像畫、戰爭畫などのやうに、人間中心なりき。自然の景物には關心無きが如し。「モナリザの微笑み」、モナリザへの高き評價に比して、背景の自然の注目せらるること未だかつてなからむ。浮世繪によりて初めて、海や山、花や蟲、鳥などの小さき生命なむ繪畫の主題たり得ることに目覺めぬる。

自然を人間の支配・管理・利用する対象と捉ふる西洋起源の人間至上主義、自然を資源とみなして恣に殺生伐採をすること、限界を越えむとす。自然を謙虚に見直すことこそ、世界に平和をもたらす一助なるらめ。

(令和八年一月十四日受附)